



棗校だより

令和8年度

7月号

No.4

7月17日 発行

校長 勝見 義治

○ らっきょう切り

昭和34年(1959年)から続いている伝統行事『らっきょう切り』が、6月23日(火)に行われました。今年も棗校生全員で行い、中学生が小学校低学年の子たちに丁寧に教える微笑ましい姿や小学校高学年になると行う「塩漬け」作業に誇らしげに取り組む姿が見受けられました。また、作業していると夢中になってしまうようで、みんな黙々と取り組む背中に伝統を感じました。

作業していると段々と上手な切り方を模索するようになり、全体の作業量を増やすための分業方法を考えるようになり、児童生徒の頭の中にいつしか様々と考えることが生まれてきますが、これこそ机上の学習ではできない学びです。学校では「生きる力」を児童生徒に育むことを目標に教育活動に取り組んでいますが、人々が生きるために取り組んできた活動の中にこそ「生きる力」を育む要素があることに気づきます。長年、そうした活動に取り組んできた棗地区の文化とそれを支えていただいている地域の方々に、改めて感謝と素晴らしさを感じました。

右の写真は、4年生が国語の学習で作成した新聞です。中にらっきょう切りに関する記事が大きく掲載されていて、アンケート結果が載せられていました。小学生全員に「らっきょう切りで楽しかったこと」を聞いたものです。1位は「仲良く切れたこと」、2位が「たくさん切れたこと」、3位が「切り方を教えてもらったこと」でした。この1位や3位の感想からは、子ども達の心の中に棗校生としての一体感が生み出されていたことがわかります。記事を読んで、改めてこの行事が長く続いてきた理由がわかる気がしました。

裏面に、らっきょう切り時の写真が掲載されていますので、どうぞご覧ください。



○ 福井県中体連 夏季競技大会

7月3日(金)・4日(土)に、ソフトテニス競技で県大会に進出した生徒達の試合が行われました。地区大会よりも気温は高くなってはきましたが、それに負けない熱戦が各コートで繰り広げられました。結果は、男子は三国 STC として出場した選手が団体戦で優勝、個人戦でも北信越大会への進出を決めました。女子は、福井市 JSTC として出場した選手が、団体戦で準優勝、個人戦で優勝して北信越大会へと進みます。惜しくも敗れた選手も、強豪相手に力強い試合を展開するなど、この先が楽しみな活躍ぶりでした。勝利して歓喜する生徒も、惜敗して悔しがる選手達も、みんな光り輝く県大会となりました。



小学校



体験いっぱい！7月の活動の様子

5・6年生は、園芸センターへ出かけ、三里浜の特産物について、収穫体験を交えながら楽しく学んできました。3・4年生は、ハニー新鮮館へ出かけ、店内やバックヤード見学を通して、お店の様々な工夫や秘密について、詳しく知ることができました。1・2年生は、自分たちの畑で育てた夏野菜の収穫を存分に楽しみました。

また、低・高学年に分かれて「ひまわり教室」を実施しました。警察の方の「ルールを守ることが町の安全に繋がっている」という言葉に、子どもたちは深く傾きながら真剣に聞き入っていました。



中学校



福井県夏季総合大会

女子団体には棗中ソフトテニス部（なつめソフトテニスクラブ）が出場し、最後まで諦めることなく、笑顔で一生懸命プレーしました。これまで暖かく支えてくださった保護者の皆様、スタッフの皆様、地域の皆様、本当にありがとうございました。

棗プロジェクト（中I）



中学1年生は、棗地区の夏まつりに向けて、武生商工高校の生徒の皆さんと協力しながら、射的やコイン落とし、スーパーボールすくいなどの出店を企画し、準備を進めています。「地域の人に楽しんでもらうにはどうすればよいか」を考えながらアイデアを出し合っています。お楽しみにしてください。

